

令和8年度 第1回 政策決定会議 会議録

-
- ◆開催日時：令和8年5月29日（金） 10：00～10：20
 - ◆開催場所：市長室
 - ◆出席委員：佐野市長、藤浪副市長、岸副市長、谷教育長、高井総合政策部長
 - ◆説明者：中井企画課長、貝口参事、布村担当長
-

◆審議事項

令和9年度国家及び大阪府予算に対する要望について・・・・・・・・・・企画課⇒承認

◆審議概要

◎説明者から、案件及び政策調整会議における議論の内容を説明し、政策調整会議にて、本件原案のとおり承認された旨、報告。

◎報告後、質疑応答

〈藤浪副市長〉当日の資料は別途作成するという認識でよいか。

〈参事〉当日資料については、図面等位置図を入れてわかりやすくなるように作成し、本市側の担当者、参加されている議員、大阪府の担当者にも共有する。当日の説明もその資料に基づいて行う。

〈藤浪副市長〉当日はわかりやすい説明をお願いします。

〈岸副市長〉臨海部の整備について、説明の中では忠岡町も要望しているとのことだったが、調整会議後に確認したということか。

〈参事〉そのとおり。

〈岸副市長〉府内で要望内容の共有は行われていないのか。

〈参事〉情報共有は行われていない。

〈教育長〉どの要望も今後の市民生活にとって重要だと改めて感じたところである。このまま引き続き進めてほしい。

〈市長〉国や府の担当課からは、事前に要望の出し方について説明があるのか。国や府と事前に調整して受け入れやすい形で要望を出す仕組みが必要ではないかと考えている。このような事前調整はこれまでに実施されているか。

〈企画課長〉各部局が要望を出すにあたり、府の担当部署とは、市としての考えや要望内容について一定の調整が行われていると認識している。

〈市長〉国についてはどうか。

〈企画課長〉国に対しての調整については聞いていない。

〈参事〉市からは、国への要望という形で自民党の大阪府議会議員団を通じて要望書を提出するが、どういった流れで国へ要望書が届くのかは把握できていない状況である。

〈企画課長〉趣旨として議員団を経由して要望するため、直接国の担当者の方と接触を持つことは難しいと考えられる。

〈藤浪副市長〉この件の窓口は府の議会事務局となっている。

〈参 事〉各会派の府議団から要望有無の確認がある。基本的に大阪府議会向けの要望であるが、自民党についてはさらに国への要望有無の確認がある。したがって、自民党向けには府への提出用と国への提出用の2種類の要望書を作成する形となっている。

〈藤浪副市長〉府の議会事務局へ、国への伝え方について確認してみてもどうか。

〈総合政策部長〉本案件について、原案のとおり承認してよろしいか。

【異議なし】

⇒本件、原案のとおり承認する。

別紙

付議会議	令和8年度 第1回会議
付議事項	令和9年度国家及び大阪府予算に対する要望について

★取組の目的

対象	国及び大阪府
どのような状態を目指す	国及び大阪府の予算に対する本市の要望を的確に各大阪府議会議員団に伝え、要望内容が可能な限り実現されることで、本市の施策・事業の推進と市民生活の向上をめざす。

★総合計画上の位置付け

6020202	基本目標	みんなで作る持続可能なまち
↑ここにコードを入力 (コードは「将来ビジョン・岸和田(体系)」シートを参照)	個別目標	持続可能で信頼される行政になっている
	個別目標の方向性	② 適正で効率的かつ効果的な業務の実施を進める
	行政の役割	広域的視点をもって、時代に応じた施策を積極的に推進する

★現状と課題

<現状>
国及び大阪府の厳しい財政状況により、国及び大阪府から本市への補助金の減少が懸念されるほか、本市における大阪府の各種整備事業が進んでいない状況にある。

<課題>
国及び大阪府からの補助金の減少は、本市事業の推進の遅延原因となり、大阪府の本市における各種整備事業の遅延は、市民の住環境等に大きく影響を及ぼすため、継続して国及び大阪府に要望する必要がある。なお、要望事項については、本市独自の課題に精査している。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額				
	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度
財源内訳	国費							
	府費							
	起債							
	一般財源							
	その他							
事業費	計			R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度
			0	0	0	0	0	0

★当該事項に関連する人員増の必要性*

人員増の必要性			R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度
有	無						

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R6年度	R7年度	R8年度	目標値				
					R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度
①									
②									

※事業費及び人員を確約するものではない。